

市内にない透析室や外来化学療法室を整備

もう一つの柱である地域のニーズへの対応については、交野病院の長年の理念である“誠実と信頼の医療”の実践をめざし、1965年の開院から必要な病床と医療機能を加えつつ、周辺医療機関との連携を深めてきました。現在、一般病床173床、療養病床35床の計208床で急性期をメインに回復期リハビリテーションや慢性期医療にも対応し、さらに後方施設である介護老人保健施設を擁して患者さんの在宅復帰の支援を行っています。

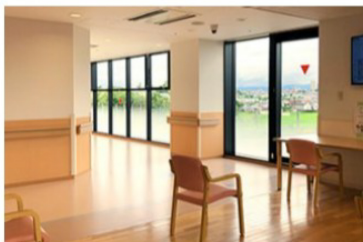
また、同じ社会医療法人信愛会が運営する大阪府四條畷市の畷生会脳神経外科病院とは、お互いの十分とはいえない医療機能をカバーし合う補完関係にあり、脳神経外科の高度な手術は畷生会脳神経外科病院、複雑な脊椎手術は交野病院で実施しています。「200床規模の病院で全ての診療科を充実させるのは困難です。それぞれの病院が持つ特徴や強みを生かして、今後は他の診療科でも連携を進めていこうと考えています」と寶子丸先生は話します。

さらに、近隣にある関西医科大学附属病院などの基幹病院で高度な治療を受けた地元の患者さんをフォローアップするという役割もあります。その一環として、交野市内になかった透析室と外来化学療法室をそれぞれ開設し、市外の医療機関への通院を余儀なくされていた患者さんを引き継ぐ形で受け入れてきました。最近では常勤医を配置して透析室の体制を強化しており、将来的には同院でのシャント造設も視野に入れているとのことでした。

今後の展望として挙げているのは、脊椎脊髄センターのさらなる強化です。「一つは臨床研究に取り組んでいくことを計画しています。症例数はある程度確保できますので研究によって最適な治療法を追求し、自らの診療の質を高めていきたいですね」と寶子丸先生は言います。加えて低侵襲化をより一層進めていくための内視鏡手術の拡充、手術後の痛みなどを除去・緩和するペインクリニックの設置、神経内科医の確保による内科的疾患への対応なども検討しています。地域医療への貢献と脊椎脊髄疾患診療の二本柱をさらに充実させていく方針です。



■回復期リハビリテーションにも力を入れており、4階に庭園をつくるなど、広大なリハビリテーションスペースを有しています。新病院の設計には寶子丸先生も深く関わったといえます。



■眺望の良い立地であることから、6階フロアの廊下はガラス張りにして外の景色を見ながら歩行訓練ができるように工夫されています。晴れた日は比叡山まで見渡せるそうです。

(2021年8月取材)